

滋賀県における ニカメイガの発生とその推移



滋賀県病害虫防除所

1

ニカメイガによる被害



2

ニカメイガによる被害



3

平成21年・22年 注意報の発表

注意報 注意報 注意報 注意報 注意報 注意報

滋病防第49号
平成21年(2009年)7月15日

各関係機関の長様
各病害虫防除員様

滋賀県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察注意報第1号の送付について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

ニカメイガ第2世代幼虫による被害多発の恐れ

平成21年度病害虫発生予察注意報第1号

平成21年7月15日
滋 賀 県

病害虫名：ニカメイガ

1. 発生地域：県内全域

2. 発生程度：多

3. 注意報発表の根拠
(1) ニカメイガ第1世代幼虫の被害株率が過去10年で最も高い(表1)。
(2) フエロモントラップで越冬世代成虫の飛来数が過去10年で最も多い(図1)。

4. 防除対策

(1) 中生・晚生(モチ米、飼料米を含む)の品種、ならびに茎が太く葉色の濃いイネでは今後の被害拡大が予想されるため、ほ場を見回り、被害の目立つほ場では確實に防除を行う。
(2) 本年の第1世代発生(はつが)虫の防除適期は、第1世代発生開始時期の場合は、第1世代発生開始後から7日以内で、
(3) 有機リン系殺虫剤への抵抗性がある。
(4) 農薬散布後1週間は落水やかけ流ししない。

注意報 注意報 注意報 注意報 注意報 注意報

滋病防第59号
平成22年(2010年)7月14日

各関係機関の長様
病害虫防除員様

滋賀県病害虫防除所長

病害虫発生予察注意報第3号の送付について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

ニカメイガ第2世代幼虫による被害多発の恐れ

平成22年度病害虫発生予察注意報第3号

平成22年(2010年)7月14日
滋 賀 県

病害虫名：ニカメイガ

1. 発生地域：県内全域

2. 発生程度：多

3. 注意報発表の根拠
(1) ニカメイガ第1世代幼虫の被害株率および発生ほ場率が過去10年で最も高い(表1)。
(2) 近江八幡市安土町大中のフェロモントラップにおいて、越冬世代成虫の飛来数が過去10年で最も多い(図1)。

4. 防除対策

の品種、並びに茎が太く葉色の濃いイネでの見回り、被害の目立つほ場では確実に防除を行う。
7月29日前後と予想される。第2世代幼虫は7日以内であり、農薬を散布する。粒毎に散布する。
いるため、農薬の選定には注意をしない。

滋賀県では昭和44年(1969年)に
注意報を発表している。
今回の発表は40年ぶり。

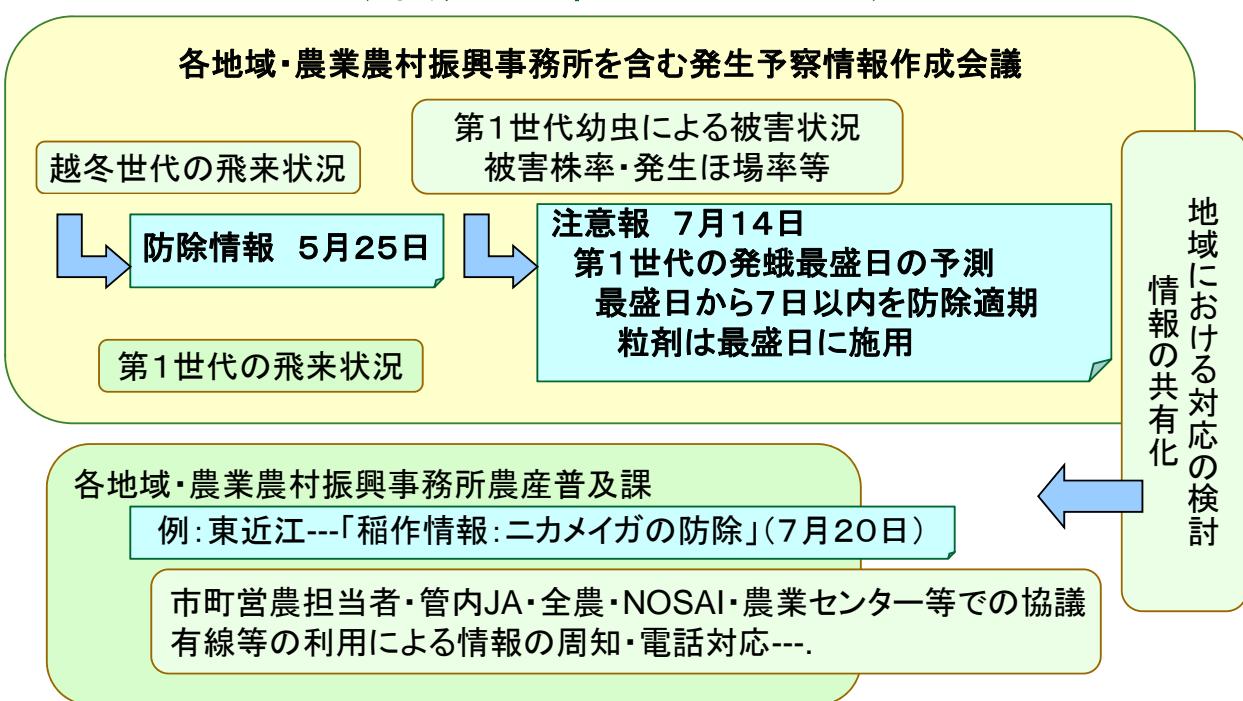
4

ニカメイガに関して発信した情報 (昭和42年~)

発表年	発表情報	備考
昭和42年 (1967年)	注意報	
昭和44年 (1969年)	注意報	
平成9年 (1997年)	防除情報	多発生注意
平成10年 (1998年)	防除情報	防除時期の注意
平成14年 (2002年)	防除情報	防除時期の注意
平成20年 (2008年)	防除情報	多発による被害に注意
平成21年 (2009年)	防除情報 & 注意報	多発による被害に注意
平成22年 (2010年)	防除情報 & 注意報	多発による被害に注意

5

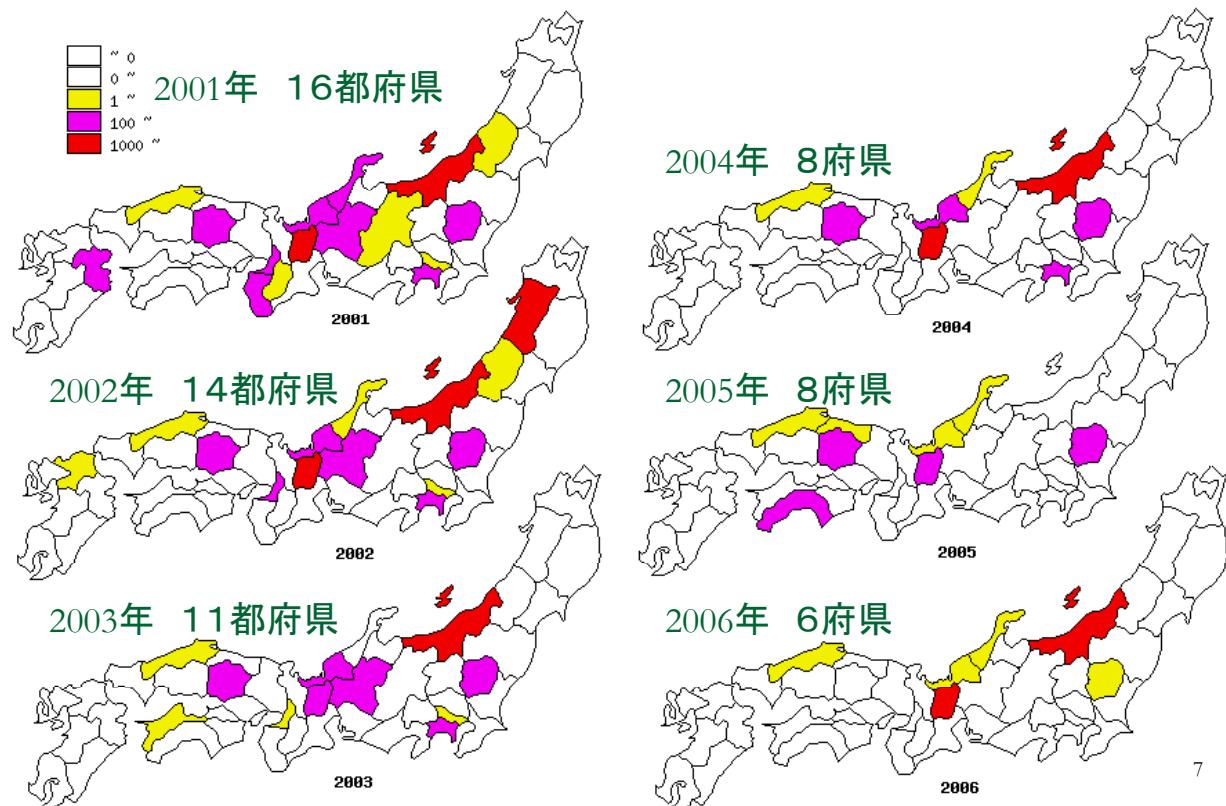
予察情報の作成・その後の情報の流れ (平成22年のニカメイガ)



6

全国の発生状況(発生程度「中」以上)

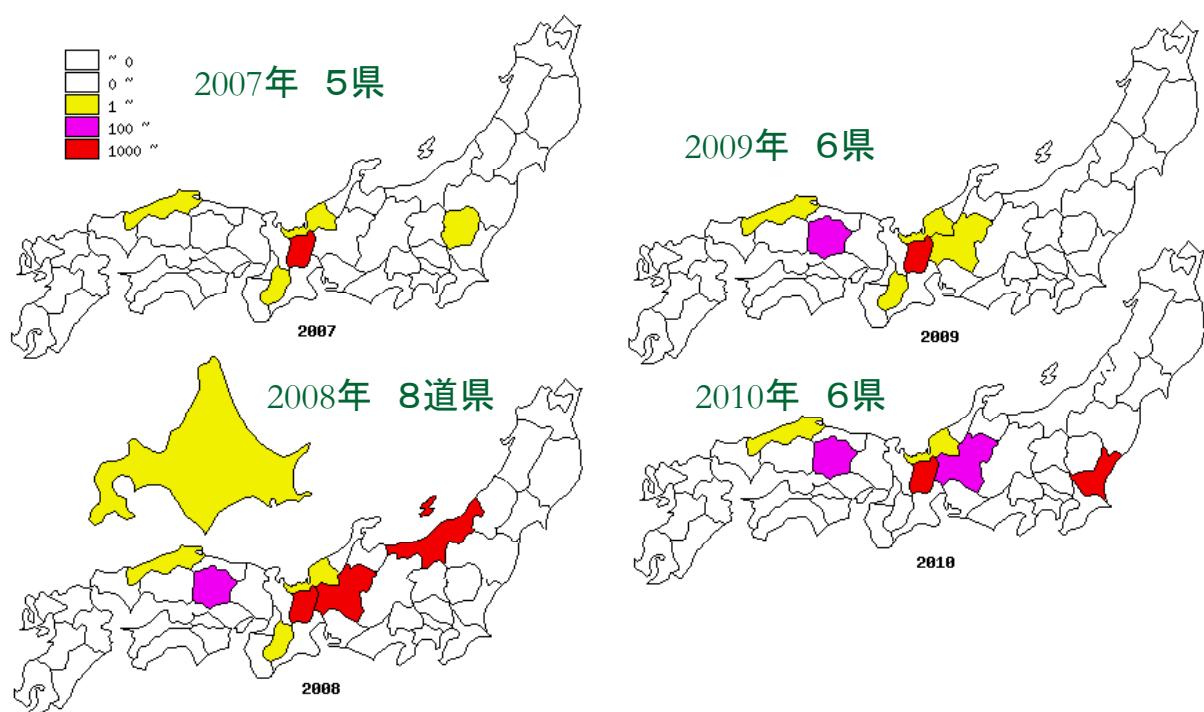
2001年～



7

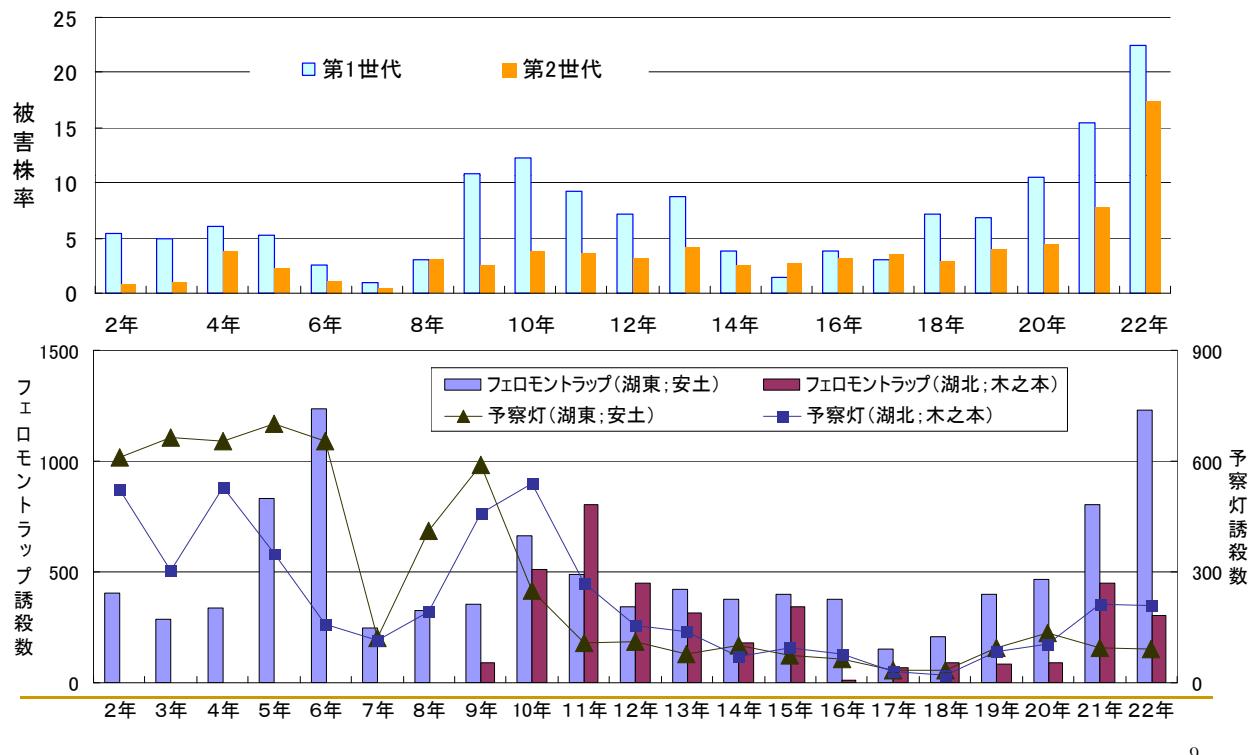
全国の発生状況(発生程度「中」以上)

2007年～2010年



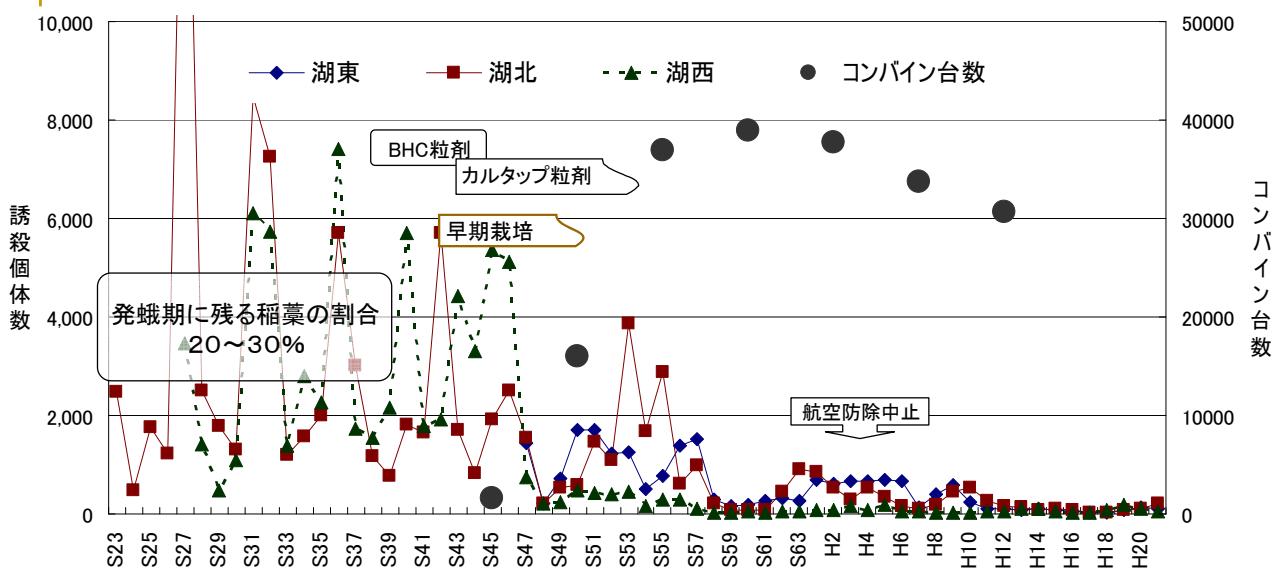
8

滋賀県におけるニカメイガ被害株率及び フェロモントラップと予察灯による誘殺数



9

予察灯によるニカメイガ誘殺数の推移

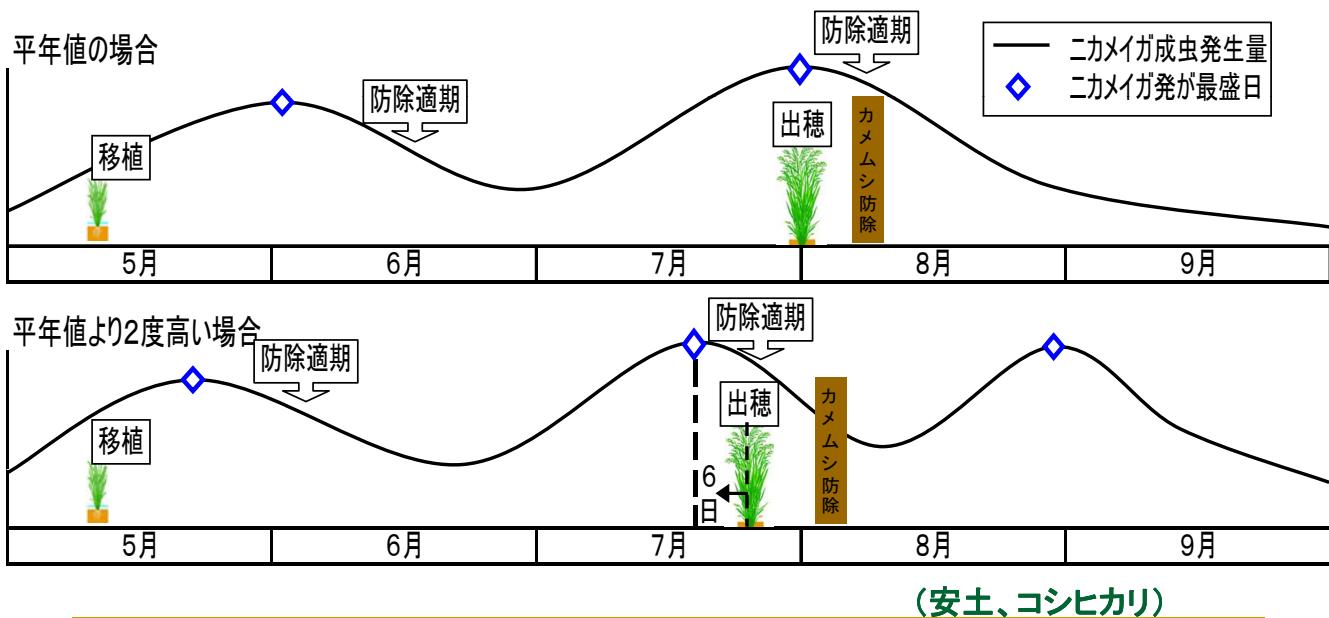


昭和47年から減少し、---この少発要因は明らかではないが、粒剤の使用による密度減少や稚苗移植によるイネ茎の細稈型への移行やイネわら処理法の変化、耕土培養資材の増施などが総合的に働いたためと思われる（「植物防疫この20年、昭和54年」より）

日本での減少---、韓国、台湾、中国---。共通することはイネの早植えが減少の開始の動機となり、その後に省力化のための機械化がすすめられてきたことである（桐谷、2011）

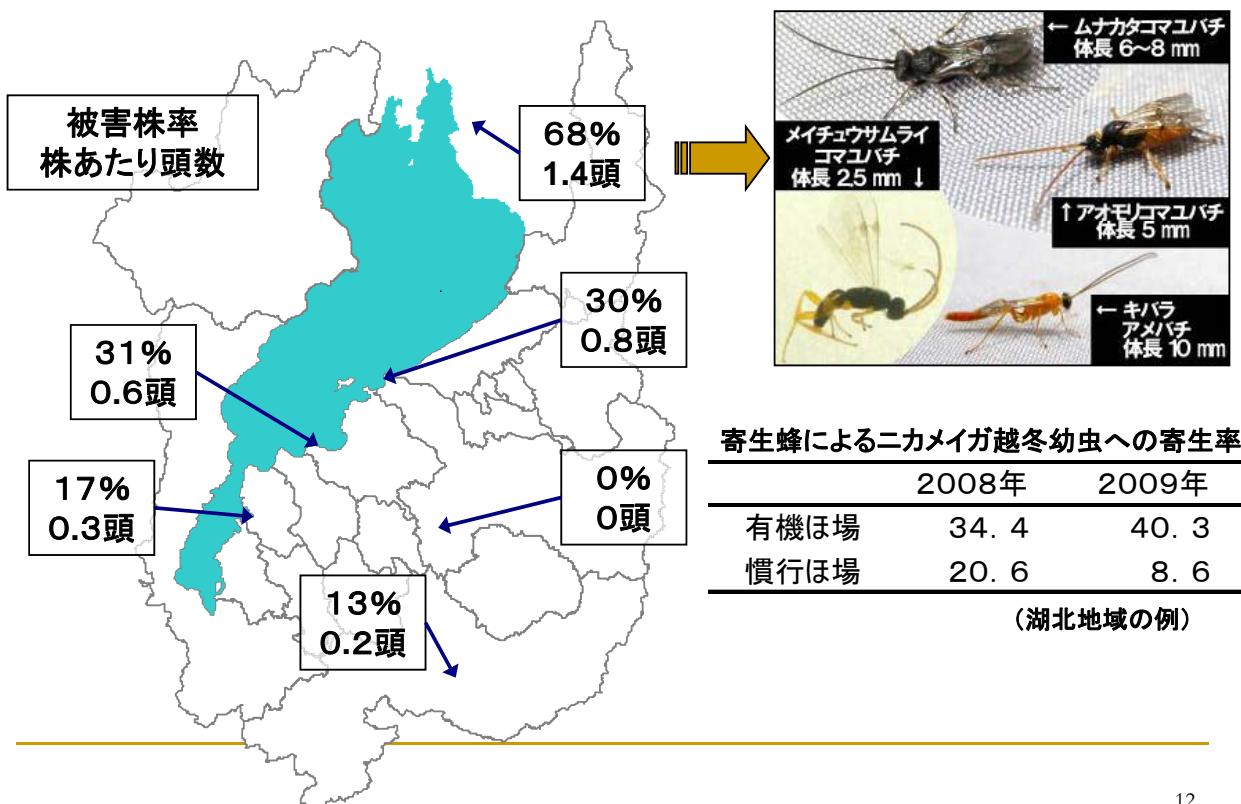
10

温暖化によるニカメイガ発生時期の変化の予測



11

ニカメイガ越冬量の地域間差



12